



学校だより

令和8年 10月号 岩国市立岩国小学校 大野 元良



岩国小HP

より充実した学びの実現に向けて！

9月の下旬を迎え、朝夕は過ごしやすくなりました。子どもたちは元気に日々の学校生活を送っているところです。例年より早めのインフルエンザ流行の報道を耳にしますが、気温差等にも配慮しながら、10月も充実した毎日を過ごしてほしいと思います。

【25年 OECD 学力到達度調査から】

いわゆる PISA テストと呼ばれる調査です。世界 91 カ国・地域の 15 歳を対象に 2025 年に実施されたもので、日本からは高校 1 年生が参加しています。

日本は、「知識を使い課題解決につなげる力を見る科学的活用力」「読解力」「数学的応用力」の 3 分野で、いずれも上位を維持する結果となりました。OECD 加盟 38 カ国に限った順位では、初めて 3 分野で 1 位になったそうです。

一方で課題も指摘されています。習熟度が最も低い層の割合が増加して、高得点層との差が拡大しています。また、読解力は平均点が低下しているとのことです。

学習環境を巡るデータからは、SNS 閲覧時間の増加や、家庭学習時間の減少など、学力の低下が懸念される情報が見受けられます。

また、「家庭で学校の様子や問題について話しますか」等の、「家庭による支援的な関わりの頻度」の指標が OECD 加盟国中最下位であったという調査結果も示されました。

現在の教育のあり方を象徴するワードとして、「個別最適な学び」「協働的な学び」による「主体的・対話的で深い学び」の実現が掲げられています。今回の調査から、こうした教育の成果は評価される部分だと思います。一方で、より「個別最適」「個に応じた指導・支援の充実」とともに、子どもたちを取り巻く学習環境を総合的に見ていく必要性が示されたように感じました。

【「7:2:1 理論」～経験・体験を大切に！～】

別名「ロミンガーの法則」と呼ばれています。人が成長する要因の 7 割が仕事上の経験、2 割が周囲からの助言、1 割が研修などの座学であることを示しています。人材育成の比率を表すものです。

理論・法則と、子どもの学びが直結しているとは言いきれませんが、経験や体験からの学びが多いことは共通している部分だと思います。経験や体験は、いつまでも忘れない長期記憶につながることや、教室での学びが体系的なものとなり確かな学びに結びつくことは、誰もが納得される部分だと思います。

岩国小学校においても、外部講師を招いた学習機会や、体験的な活動の場の設定に力を入れています。個々に目標を設定した活動ではありますが、「充実した学び」の実現に向けて、カリキュラムの工夫に取り組んでいるところです。9月の取組の一部を紹介します。ホームページでもお知らせしていますので、ご覧いただき家庭での話題にしてください。



宇野千代さんについて
(5年)



科学センター理科学習
(4年)



交通教室
(3年)



すずかけの会
(読み聞かせ 低学年)



山口DC出前講座
(6年)

「安心・安全（にこにこ）」「交流（わくわく）」「探求・探究（どんどん）」